

平成30年度 第3回安城市市民協働推進会議議事要旨

日時	平成31年1月20日（日）午前9時15分～午前11時40分	
場所	安城市民交流センター2階 多目的ホール	
出席者	委員	岩井洋二会長、竹味紀子委員、山下眞志委員、山本美由子委員、野上三香子委員、神谷和明委員、久恒美香委員、廣田純子委員、舩尾恭代委員、今井安隆委員（10名）
	事務局	三星市民生活部長、牧市民協働課長、石川市民協働課長補佐、市民協働課職員2名（満島、太田）、天野高齢福祉課地域支援係長（行政提示型事業テーマ説明のため出席）
次第	1 市民憲章唱和 2 会長あいさつ 3 議題 （1）平成31年度市民活動補助金交付対象事業本審査（公開プレゼンテーション）	

（事務局）

皆様、おはようございます。本日は週末の足元の悪い中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから平成31年度の安城市市民活動補助金の本審査を開始させていただきます。なお、この本審査は平成30年度の第3回の市民協働推進会議を兼ねておりますのでよろしくお願いいたします。始めにあたりまして委員の出席状況を報告させていただきます。宮原委員様、三浦委員様、高橋委員様、小山委員様からのご欠席の連絡をいただいております。山下委員が連絡がつかないものですから欠席の状態ですけれども、委員の半数が出席をしていただいておりますので、会議の方は規定により成立いたしましたことをまずもって報告をさせていただきます。それでは市民憲章の唱和を行いますので、皆様、ご起立をお願いいたします。（しばらくして山下委員が到着されました。）

1 市民憲章唱和

2 会長あいさつ

(会長)

皆様、おはようございます。お忙しい中、また足元のお悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日は、平成31年度市民活動補助金の本審査ということでございます。平成31年度に実施していただく市民活動補助金制度の対象事業を決めていただくという大変重要な会議になっております。

市民活動補助金につきましては、ご承知かとも思いますが、市民の皆様からの寄付と、その同額を市の方から出資し、市民協働推進基金というものをつくっております。これを原資として活動補助金としておりますので、大切な寄付と税金が財源となっておりますので、委員の皆様方にはぜひ公平な審査をお願いしたいと思います。この後プレゼンテーションをしていただく団体の皆様におかれましては日ごろの活動のお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。このための準備も進めていただいたことを感謝申し上げます。きょうは皆様の活動について十分PRしていただきまして、補助金の有効な活用についてお考えいただきたいという風に思います。本日はどうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。ここで委員の皆様の自己紹介をしていただきたいと思います。あらためまして会長から反時計回りで順次、よろしくお願いいたします。

《各委員自己紹介》

どうもありがとうございました。それでは、審査会の方に移らせていただきます。まず、スケジュールと審査方法につきまして、市民協働課課長補佐の石川より説明をさせていただきます。

《本日のスケジュールと審査方法について説明》

(事務局)

次に行政提示型事業のテーマ説明に移ります。若年性認知症の本人・家族のつどいについて高齢福祉課より説明をさせていただきます。お聞きください。

(高齢福祉課地域支援係長)

《行政提示型事業テーマ「若年性認知症の本人・家族のつどい」について説明》

(事務局)

説明をさせていただきました。不明な点、質問等は委員の皆様、ございませんでしょうか。

(委員)

安城市の場合、市と協働する場合は3つの領域がありますよということで決められてるみたいで、団体主導なのか、双方主体なのか、市主導なのか、今回のこの行政提示型、市の方はどういう風に考えられていますか。

(高齢福祉課地域支援係長)

市としましては本当に初めてというか、ほぼ今まで手掛けてなかった部分です。こちらとしましては一緒にやっていきたいと、行政主導というよりも、市民の方が主導というよりも、一緒に考えてやっていきたいと考えている事業です。

(委員)

双方主体だということでよろしいですかね。

(高齢福祉課地域支援係長)

そうですね。はい。

(委員)

わかりました。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。他にはよろしいですか。それでは、これよりプレゼンテーションの方に移りますので、準備ができるまで待っていただくようお願いします。

3 議題

(1) 平成31年度市民活動補助金交付対象事業本審査

(事務局)

それでは、グリーンそうさんの発表をお願いしたいと思います。グリーンそうさんは紙資料ということで、それでは発表よろしくお願ひいたします。

《グリーンそうより事業の説明》

(事務局)

どうもご苦労様でした。ちなみにこのグリーンそうさんのロハスなまちづくりは協働提案型事業でございます。それでは質疑応答に移らせていただきます。質問のある委員様は挙手をお願いします。

(委員)

協働提案型ということなのでひとつ聴きたいんですが、質問でもさせていただいたんですけども、3つ団体がありますよね、自然農ネットさんと森を再生する会とおとうふ工房いしかわさん。何となくこの自然農ネットさんとおとうふ工房いしかわさんは、何となく事業を見ててこんなことやるのかなというのがイメージできるんですけども、森を再生する会さんは何をやるんですか。

(グリーンそう)

さっき触れましたけど、水、水源の確保、向こうから、根羽村の方とかあちらの方から水を安城はいただいていますので、水源の確保ということと、さっき言った森を健全に戻すということで植樹とかいろいろなことをやって、森の中でさっき言ったメープルシロップも毎年とりますけど、メープルシロップにとって生活・・・

(委員)

ちょっと待って。今回の事業でやるんですね、これ。

(グリーンそう)

はい、入ってます。でもここの4つの中には入れずに別の枠の、自分でお金を出してやりますので。森を再生する会は毎年そういう風で事業をずっとやってきてるので、事業は続けていきます。

(委員)

ちょっといいですか。今回の補助事業の対象として入ってるんですか、入っていないんですかと聞いているんです。

(グリーンそう)

間伐材を利用するのだけは入っております。生活を豊かにしていくというこ

とで間伐材を使っているいろんな講座が入ってきますので。

(委員)

1、2、3、4とありますが、どこでやるんですか。

(グリーンそう)

料理を作ったりとかするときに間伐材のお皿とかそういうの全部使っていきますので協力をしていただくという形です。

(委員)

間伐材を切って出してきてくれるということですか。

(グリーンそう)

それは私達もやってますので、私達の毎年やっている作業の、事業の中に入ってます。

(委員)

森を再生する会はどんな役割を持ってるんですかと聞いてるんですよ。

(グリーンそう)

私達は山も自分たちで持ってるので、その団体ですので、一緒に間伐をして環境をよくしていこうというひとつの・・・

(委員)

協働事業なので、対等な立場で、どういう風にお互いのいいところを出し合ったりやりましょうというのが協働だと思うんですけども、一緒にやって、よくわからないんですけども。

(グリーンそう)

一緒です。ずっともう10年来やってますけれど・・・

(委員)

もういいです。

(グリーンそう)

同じ仲間として考えていただければいいのかなと思います。

(委員)

団体の回答の欄で一番最後に講座の内容を一部変更しましたということで1番、2番ががらっと変えられておるんですが、これは元々の事業スケジュールであった毛糸で防寒靴下だとか竹箒作りを止めてこれに差し替えますよということではよろしいでしょうか。

(グリーンそう)

はい、いいです。帽子とか竹箒もずっとやっていきますのでこれから。来年か再来年ぐらいに入れ込んでいきます。

(委員)

はい、わかりました。ありがとうございます。

(委員)

支出のことで少し一点だけ聞きたいんですが、質疑で上がってたんですが、スタッフの交通費についていろいろ計算されてるんですけども、元々書いてある申請書の書類を見ると、領収書がないものについてはなかなか助成することができないという風に書いてあるんですが、領収書は出るんですかね。

(グリーンそう)

領収書は一人ずつ出してもらいます。この前、県の方から助成金を30万いただいて違う講座をやったときも全部で十何人でしたかね、全部行った分を一人ずつ、いつ何キロ使ったという領収書を全部、県の方に提出しました。

(事務局)

時間がまいりました。以上で質疑応答を終わらせていただきます。グリーンそうさん、どうもご苦勞様でございました。次はTEDx安城実行委員会様です。TEDxさん、ご準備の方お願いいたします。

(事務局)

それでは準備の方が整いましたので、プログラム番号2番、TEDx安城実行委員会様のTEDx安城2019について発表していただきます。この事業は市民提案型事業でございます。それでは発表、よろしくお願いいたします。

《TEDx安城実行委員会より事業の説明》

(事務局)

どうもご苦労様でした。では、質疑応答に移らせていただきます。

(委員)

一TEDファンとしては続けてやられていることに非常に敬意を表したいと思います。こういうことをやれるのはなかなか安城でもないんで、ぜひ続けていただきたいと思うんですが、一つお聞きしたいのがですね、この助成金事業なんですが、スタートアップ支援だということはご存知ですよね。

(TED x 安城実行委員会)

はい。知っております。

(委員)

出していただいたこの収支の方を見るとですね、貴団体がですね、断トツで多いという、100万超えてる事業規模なんです。他に企業からも30万ぐらいの資金援助がもう見込まれてますよみたいなことが書いてあったと思うんですけども、これ考えると、これだけのことがもうできるのであればスタートアップ支援の助成金にふさわしいのかなと思うんです。これだけのことができるんだったらもう自立でやれるんじゃないですかと思うんですが、何でこの7万5千円がどうしても必要なのかというのは質問させてもらったんですが、会場費に使わせてもらいますよという回答だったんですが、ちょっと寂しいなと正直思います。これが本当に新たなアイデアを発掘するために7万5千円どうしても使いますということをしていただければ喜んで出すんですが、会場費で7万5千円使わせてもらって終しまいですかという、その辺はどう考えてますか。

(TED x 安城実行委員会)

安城市内の参加者が10%いかないんですよ。とても寂しい思いをしてまして、行政側、市役所さん側の協力もいただいて安城市内に広めるということが非常に我々の最重要課題の一つであると認識してまして、最初から実はそうなんです。例えば市の補助金に申請をします、認められました。前回もそうだったんですが、広報なんか積極的に載せていただけるんですね、お願いにいくと。我々単独でやってる場合は載せていただけません。そういうこともあり、もう一個は市役所の市長さん、教育委員会、その辺にもいけるもんですから、そういう

タイミングで話をさせていただいてとてもありがたい。そちらの方がむしろ重いかもしれません。

(委員)

わかりました。そのために補助金の申請をしますよということですね。

(TED x 安城実行委員会)

その中で市に認められたというのが大きいと思います。

(委員)

8次総合計画のところにきちんと載ってますからほとんどの方は知ってるんだと思いますよ。先程ちょっと聞いたのが、ちょっと引っかけたのが、アンフォーレでやったのを今度、新しいマツバホールでやりますと。収容人数だいぶ違いますよね。これ前に戻したら7万5千円いらんんじゃないかという風に思ったんです。それだけのことです。よくよく考えてお金を使っていたきたいと思います。これ血税ですので。お願いします。

(委員)

スピーカーの人は先程の写真ではだいたい9人ぐらいいましたけれど、スピーカーになりたいという人は実際、最初はどれくらいいて、その中で選考されてくると思いますが、3回目はちなみにどれくらいの人が応募がありましたか。

(TED x 安城実行委員会)

代表の上田です。よろしく願いいたします。スピーカーになりたい方はかなりいらっしゃいます。過去3回はオーディションというのを並行してやりました。自分たちが出ていただきたいなという方もいらっしゃるんですけども、そうじゃなくって、まだ埋もれている、私達の知らないアイデアを発掘したいということでオーディションを開催しました。その時はだいたい毎回30名以上応募があります。そして、来ていただく方には必ず面接してアイデアをお聞きして、その中から3名くらいですから、だいたい1割くらいの方に出ていただきました。

(事務局)

どうもありがとうございました。以上で質疑応答を終了させていただきます。TED x 安城実行委員会の皆様、どうもご苦勞様でした。では、次の発表の準備をお願いいたします。

(事務局)

それでは準備が整ったようですので、プログラム番号3番、暮らしのお金を学ぶ会みかわさんの、人生100年時代～不安に見える化して次への一步を踏み出そう～について発表していただきます。この事業は市民提案型事業でございます。それでは発表、よろしくお願いいたします。

《暮らしのお金を学ぶ会みかわより事業の説明》

(事務局)

ご苦勞様でした。それでは質疑応答に移らせていただきます。

(委員)

すいません何回も。一つお聞きしたいんですが、市民版PDCAサイクルを回すということをご存知ですよね。

(暮らしのお金を学ぶ会みかわ)

はい。

(委員)

これ回すのにどうやって回すのかなと思って質問させてもらったんですが、現在、社会的課題がどれぐらいあるんですかっていう風に認識されてるのかなと思って聞いたんですが、数値目標はありませんという風にしてあるんですけども、数値目標がなくってどうやってPDCAサイクルを回すのかなと。結局、定量的なものを計らずしてどうやってその効果が見えるのか。私ちょっとやったことがないんで、ぜひFPの方なら新しいやり方知ってるのかなと思って、ぜひ教えていただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

(暮らしのお金を学ぶ会みかわ)

回答のところでもこちらの方回答させていただきましたけれども、数値を設定するというのは正直難しいと考えております。といいますのも今回のこの事業を行った結果としまして市民活動へ参加されるかどうかというところは受講者の方が、ご自身がお考えになることになります。ですのでやった結果、事業を行って受講をした結果として実際に参加できるかどうかというのをその時に感じていただけるかどうかというのは数値として求められるものではないと思うんですね。そういった点で今回、回答の方では数値での結果というのを提示

することができませんということをお答えいたしました。

(委員)

課題としてニーズはあるけどもお金の面で不安があるから市民活動に二の足を踏んでる人がいますよということを認識されてるんですよね。どれくらいいると思ってるんですか。それが数値目標じゃないでしょうか。

(暮らしのお金を学ぶ会みかわ)

その数値目標、非常に客観的な数字というか、感覚で捉えることができておりません、実際のところは。ただ、今までの活動をしていく中でそういった声を多く聞いてきたというところが今回のそもそもの始まりという形になっておりますので、そういったことの統計データというのは正直とすることは難しいんじゃないかと思われるんですが。

(委員)

わかりました。どこの会社でもなんでもそうなんですけども、非常に定性的な話が多いと思うんですよ。それを何とかして定量的に、どこを切り取って定量的にわかりやすくするのかということが、どこの会社でもやられてると思うんですけども、この数字として誰が見てもわかるというところが一番モチベーションが上がると思うんで、わからないからやめましょうっていう風じゃなくて、少しその辺ももう少し考えていただいて、わかりやすく提示がしていただくと、こっちも評価のしようがすごく楽になりますので、ぜひ考えていただきたいと思います。以上です。

(事務局)

続いて質問のある委員様。

(委員)

世代によってライフプランが変わってくるかと思うんですけど、同時に幅広い世代が一緒に受講できるセミナーなんですか。

(暮らしのお金を学ぶ会みかわ)

はい、それを心がけたいと思っております。年齢だけではなく、性別ですとか環境というところも含めて普遍的なところのお話を差し上げたいと思っております。一般的と申し上げた方がいいですかね。誰か個人の、ご自身の事情に合わせてっていうのは今回の受講を受けていただいた結果、持ち帰っていただいて

していただきたいという風に思っております。

(委員)

ライフプランを行ったところで地域活動へ取り組みが変わるというか、そこへいくという風には私自身では考え難いんじゃないかなと個人的には感想を持っています。そんな中で市民活動の心構えとか地域活動の事例を、紹介も同時にこの3回のセミナーの中で行うとなってますけども、具体的にどの回で行おうと思っておられますか。

(暮らしのお金を学ぶ会みかわ)

まず冒頭のライフプランからというところのお話なんですが、当会としましては今回の事業の対象としているのがそもそも市民活動に参加しようと思っ
ているということが前提条件にございます。そういった方を対象にしているとい
うところでこちらの方の事業を見ていただきたいという風に思っております。
ご質問のもう一つのどのところで市民活動へのいろんな紹介をするのかという
ところは第3回のところでご案内をしようという風に考えております。

(会長)

地域活動の事例を紹介しコーディネートするという風に書いてございますけ
れども、どんなような地域活動を想定されておりますか。事例の紹介をするとい
うことで具体的におっしゃっていただけたらと思います。

(暮らしのお金を学ぶ会みかわ)

当会では特段、自分で事業を行うということはいたしませんので、こちらの市
民交流センターさんの方で扱われているような事業というものを紹介できたら
という風に思っております。

(会長)

丸投げするということですね、結局は。

(暮らしのお金を学ぶ会みかわ)

丸投げではないんですが、その方のご希望に合ったものというのを提案する
ときには、こういった市民交流センターさんの持たれている情報を利用させて
いただいた方がより合致するのではないかと考えております。

(会長)

じゃあもう、それしかないですね。

(事務局)

時間がまいりました。以上で質疑応答を終了させていただきます。暮らしのお金を学ぶ会みかわの皆様、どうもご苦勞様でした。次の発表者の方の準備の方よろしく願いいたします。

(事務局)

お待たせいたしました。準備ができたようですので始めさせていただきます。次、プログラム番号4番、特定非営利活動法人 ing 様の、若年性認知症の本人・家族のつどいについて発表していただきます。これは冒頭で説明をさせていただきました行政提示型事業、若年性認知症の本人・家族のつどいの対象事業でございます。それでは発表、よろしく願いいたします。

《特定非営利活動法人 ing より事業の説明》

(事務局)

どうもご苦勞様でした。続きまして質疑応答に移らせていただきます。

(委員)

事業内容を見させていただいて、これ本当、このお金でできるのかなと、丸が二つぐらい足りないんじゃないかなくらいに思ったんですが。先程も行政提示型なんで行政の方に聞いたんですが、双方主体でやられるという認識があるそうなので、ぜひこれだけの事業をやるのであれば、対等な立場で、一番大変なのは事務局だと思うんですね。会議体なんかを全部やるとすると人集めもあるし、パートナー企業にどうやって声かけるかみたいなこともあると思うんで、ぜひ応分の負担をしていただいて、行政の方にもしっかりと働いてもらうようにしてください。でないと本当に、これだけのことをやるっていうことであれば大変だなあという風に思いますので、ぜひ報告の方もですね、できればぜひ行政の方と一緒にやっていただいてと思いますので、ぜひがんばってやっていただきたいと思います。なんか感想みたいになってしまってすいませんでした。

(委員)

行政提示型ということで、この内容でしたら ing さんじゃないかなと、初めっからの感じが何となくあるんですけども、審査の立場といたしまして積極性の点が評価したいもんですから、この事業に対する意気込みを一言いただけた

らなと思いますのでよろしくお願いいたします。

(特定非営利活動法人 ing)

今まで ing の事業というのは全部、自分のためにやってきた、つくってきたものばかりです。託児だとかいろいろな講座を通してとか、みんなが集まる場所をととか、自分のためにつくってきたんですけど、たぶん若年性認知症の場をつくっていくというのも自分のためだなと思っています。認知症だけじゃなくて、じゃあ65歳かきりから認知症、高齢期かというのはおかしいですね。認知症というのはとてもグレーに、徐々に始まっていくものとするならば、そこに行政的に65歳かきりと線が引けるものではないだけに若いころからどんな方でも、どんな大事なことを忘れても、大事な人のことを忘れちゃっても、それでも生きがいをもって最後まで生きれるっていう安城市に、社会になっていくことを目指すのであれば、それは自分自身の、これからの社会のためにとても大事なことなので、一緒に協働でこそ成し遂げれるたくさんのネットワークとか、専門職の方とつないでいくということは私だけの団体だけでは、ingだけではできないことなので、本当に協働を進めていくみなさんが、もし万が一若い時代に認知症になられても不安なく安城市で過ごしていただけるような、そんな準備を整えていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局)

続いて質問はないでしょうか。ないようですので以上で発表の方を終わらせていただきます。Ing の若年性認知症の本人・家族のつどいの発表でした。どうもご苦勞様でした。続いて次の発表の準備の方をお願いいたします。

(事務局)

準備も整いました。では、プログラム番号5番、イワカガミ様の、地域における子育て支援～自然遊びから成長へ～について発表していただきます。この事業は協働提案型事業でございます。それでは発表、よろしくお願いいたします。

《イワカガミより事業の説明》

(事務局)

ありがとうございました。それでは引き続き質疑応答に移らせていただきます。質問のある委員様、お願いいたします。

(委員)

この事業を行うことで解決される社会的課題は何ですかということで聞かせていただいたんですが、回答いただいたんですけども、ちょっとよくわからなくてですね、私の勉強不足だと思うんですが。これいま話を聞いてると、結局まあ遊びの中でいろいろ社会的な学びがあるよということだから遊びが大事ですよということもわかるんですけども、ちょっとネットで調べてみたらですね、文科省が出してることで、自然体験が豊富な子どもほど道德感や正義感が充実していて、それがなおかつ身についてますという傾向があるということで、結局、自然体験をしないというところがおろそかになるからぜひ必要ですよということで理解していいんでしょうか。

(イワカガミ)

はい、結構です。

(委員)

ではそれを前提にして、次の本題の方に移らせていただきたいんですけども、この事業をやることによってどれくらい課題が解決されますかということで聞かせていただいたんですが、数値での課題の達成には回答ができませんと書いてあるんですが、前の方も一緒だと思うんですけどもね、非常に定性的で、わかりますけども、その次を見るとですね、市民版のPDCAサイクルをどうやって回しますかという風に聞いたところ、結果検証を分析しという風に回答いただいているんですよね。数値目標がなくてどうやってこれ検証、分析するんでしょうか。

(イワカガミ)

まず子ども達が私どもの企画に参加する、これがまず前提です。より多くの子ども達、それを育ててみえるパパさん、ママさんも一緒になって参画していただく。やはりおっしゃるような数値いうのは出てこないんですよ。学校でも出すことができないんですよ。授業の中で、あるいはクラスの中で、学校全体で、地域全体で。もっというならば数値化してどうか。その数値を生かす手立て、それは人ですよ。自分達が楽しく子ども達と接し、その見返りとして子どもの笑顔があればいいじゃん。私はそう思ってます。難しいことはわかりません。心理学者でも教育者でもないから。

(委員)

ありがとうございます。言われることはよくわかります。これ、みなさんが結果検証を分析しと自分で書いてるから聞いただけの話で、よくわかりました。

もういいです。

(イワカガミ)

補足します。参加されるお子さんと親御さんの方には、まず最初の時点でアンケートをとらせていただいて、自分の意識自体に、今どれくらいのものを持っているかっていうのをとった後、また事業の終わりの方にもう一度同じアンケートをとらせていただいて、自己肯定感だとか、こういう事業を通して正義感が養われたとか、すごく友だちとのつきあい方が上手になったとか、そういったことの数値が上がっていく、満足しましたとか上がっていく、そんなようなアンケートをとって数値化していきたいなという風に思ってます。

(委員)

10段階とか5段階の数値でわかりやすくするということですね。そう言っていたら非常によくわかりました。

(事務局)

続いて質問のある委員様、おみえになられますか。ないようですので、どうもイワカガミ様、ご苦労様でございました。それでは、次の発表の準備の方よろしくをお願いいたします。

(事務局)

それでは準備の方が整いました。最後のプレゼンとなります。プログラム番号6番、Social Capital Incline 様の、不登校の子と親の交流広場について発表していただきます。この事業は協働提案型事業でございます。それでは発表、よろしくをお願いいたします。

《Social Capital Incline より事業の説明》

(事務局)

ありがとうございました。それでは質疑応答に移らせていただきます。

(委員)

ひとつお聞きしたいんですけども、今のプレゼンを聴いてると、これ申請書のところに書いてあるとよくわかりにくかったんですが、Social Capital Incline さんがセンターでやってるという風にして書いてあるんですけども、実は皆さんの

団体がやられてるということなんですか。

(Social Capital Incline)

11月から始めました。これはうちの団体ではなくて、ここの市民活動センターの自主事業としてやっていただくようなお願いをしております。このセンター事業でやってもらってます。

(委員)

結局、センターの自主事業なんだけれども、主体としては皆さんがやってますよということでもいいですね。

(Social Capital Incline)

まあそうですね、はい。

(委員)

それがわからなかったから、非常にこれ見ててですね、何を言ってるのかさっぱりわからなかったですね。はっきり言わせてもらって。今のお話で非常によくわかったんですが、ひとつ残念だったのがですね、質問を5番でさせてもらって、同じようなことで10番でまた他の人も質問してるんですけども、質問を質問で返すというのは、私はどうかと思ひましてね。

(Social Capital Incline)

ごめんなさい。その時にぱっともらって書いたのでどんなことか読み上げてもらっていいですか。

(委員)

長いので後で読んでください。どういうことでしょうかみたいなことで書いてあるんですけども、まず、端的に答えていただきたいです、質問に対して。ここですね。最終的に自助団体を育てますよという風に言ってるんですね。自助団体ということはセルフヘルプグループのことなんですかという風に聞いてるんですね。そうだとすると小さな自分達の輪の中で収まってしまいうんじゃないですか、それがどうやって協働する、協働によるまちづくりの推進にどのようにつながってくんですかって聞いてるんですね。

(Social Capital Incline)

今、答えてもいいですか。その時、質問の意図が、私も反対にわからなかった

ので、私がそのまま直感で感じたことをそのまま回答にしました。自助グループといっても安城市に5つグループがあるんですけども、大体一つの団体が10家族くらいしか来てません。220人の子どもたちが学校に来てないということは220世帯がある中でたったの10世帯とか20世帯しか集まってないですね。教育センターの方にも、220人の子どもがいても実際に来てる子ども達の実人数は20人です。じゃあ残りの子ども達はどうなってるのか、その他の親はどうなってるのか。その自助団体自体が広がっていくということは、今そこに関わっていない世帯達が入ってきてもらって会を大きくしていくということですよね。そのことを私は言っているのかどうなのかがわかんなくて、自助団体を育てるというのはそういうことじゃないですか。会を大きくしていく、また後、もう一個、子どもの問題というのは卒業してしまうと終わりにになってしまうんだけど、次から次へとあがってくるので、常に継続的に育て上げていくというのが必要だと思ったということによろしいでしょうか。

(委員)

熱意は非常にわかります。自分で自立してちゃんと活動したうえで、そのうえでちゃんと協働するような団体をつくりますよと言っただけならば非常にわかりやすいんですよ。その辺がわかりにくかったんでどういう意味かなと。はっきり答えていただいてるんで私もはっきり言いますけども、この文章読んだときに不誠実だと思ったんですね。ちゃんと何で答えないのかなという風に思いましたので一言言わせてもらいました。今、お話をお聞かせいただいたんで、大体よくわかりましたんで、私の質問はこれくらいで終わらせていただきます。ありがとうございました。

(委員)

事業計画の中で思ったのは、やはり目線がどうしても市民交流センターさんの目線で書かれたのかなと思って自主性をあまり感じなかったんですが、今の説明で積極性が感じられましたので十分だと思います。

(Social Capital Incline)

これすごくわかりにくかったのは、私の中ではかなり立場をわきまえて書いたつもりなんですけども、私、ここのセンターのスタッフであり、インクラインの代表であり、先程も言いました不登校の子の親の当事者でありっていう立場でもありました。審査員の皆さんの方の手元にありますとおり、協働していくっていうところは、ここにたくさんの方の大人たちに関わっていただくという風な思いで協働と書いてます。当然、スポーツをやっていこうと思ったらスポーツの

インストラクターの方をお招きしたいですし、その中から例えばですけど、私よくフェイスブックに書くんですが、子どもがちょっと農業やってみたいなと思うのであれば、ここに登録している430の団体の中のどなたかに援助いただいて社会参加の機会をいただきたいと思います。それが協働だと思っています。

(事務局)

時間となりました。どうも発表の方ありがとうございました。不登校の子と親の交流広場について Social Capital Incline 様でありました。発表、ご苦労様でした。

以上で本日予定をしておりました事業発表をすべて終了となりました。発表していただいた発表者の方、そして、本日来ていただきまして傍聴、参加をしていただいた皆さん、本当にありがとうございました。本日の審査結果でございますが、この後、決定とさせていただきます。その結果は2月の下旬、申請団体の皆様には通知の方させていただきます。そして、一般の皆様には市公式ウェブサイトと広報あんじょうの方で掲載をしますのでご覧いただきますようよろしくお願いいたします。そしてもうひとつ大事なことです、採択された後のお話なんですけれども、来年、平成32年3月ごろに市民並びに市民活動団体様の前で事業報告、こういった結果、効果をあげることができましたという発表会を開かせていただきますので、事業申請者の皆様、がんばっていただきたいと思いますし、また、傍聴者の皆様もこちらの方に来ていただいて報告の方を聞いていただけたらと思います。それでは、これをもちまして安城市市民活動補助金本審査を終了させていただきます。皆さん、どうもありがとうございました。

冒頭で申し上げましたように、この後、審査、採択決定を行いますので、発表者の皆様、そして本日、傍聴していただいた皆様は、この部屋から退席の方をしていただきます。どうも皆様、本当にありがとうございました。お帰りの際は交通安全に気をつけてください。

審査員の皆様におかれましては、採点の方をしていただき、合計点数を記載していただきましたら、お手数をおかけしますが15分後に、この間、事務局で集計して、結果の平均点等を出させていただきますので、15分後の25分をメドに自席の方に戻っていただけたらと思います。それでは今から集計をしますので、しばらくお時間の方をいただきますようお願いいたします。

——ここからは非公開で本審査の採点結果報告、採択決定を行いました。——